

Hondaはこれまでお客様の生活の役に立つ商品の提供を目的に、簡単な操作で運転のできるオートマチック技術を搭載した二輪車を開発・販売してきました。1958年にはオートマチック時代のさきがけとして、自動遠心クラッチ機構を備え、クラッチ操作無しでギアを変速しながら運転ができるスーパーカブC100を発売。1977年発売のスポーツバイクのエアラ(750cc)には、大型二輪車初のオートマチック機構としてトルクコンバーターを搭載。さらに1980年発売のタクトにはHonda独自技術の無段変速機構(Vマチック)を採用するなど、新機構を開発しながら現在に至っています。

現在、アジアを中心とした新興国において、二輪車は生活に密着した移動手段や趣味の商品として広く活用されており、特にオートマチック・トランスミッションはスクーターを中心に広く普及しています。そのような中、利便性と耐久性の高さで、多くのお客さまからご愛顧いただいているスーパーカブタイプにも、フルオートマチック化を望む声が高まっています。今回発表する「CVマチック」は、これらの市場ニーズに合ったカブタイプ用のオートマチック技術として、お客様の利便性を飛躍的に向上することで、新興国市場に新しい価値を提案していくものと考えています。

